

《今朝の聖書から》『マタイによる福音書』2章が今朝の聖書箇所です。2節で“ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました”という博士達の言葉に始まります。この博士達と記録されているのが、誰だったのか、いろいろと調べられましたが、よく分からないのが本当のところではあります。また東方と言っても何処なのかも分かりません。一般的にはゾロアスター教（拝火教）の祭司または占い師だとされています。彼らは天の意思が、天体の動きによって示されると考えていました。旧約聖書の歴史の中にも、天の啓示が星によって行なわれるに違いない、という考えはありません。まは博士というのも、今の“科学的”なという言葉の意味が異なる時代ですから、占星術師と言えるような存在かもしれません。いずれにしても、イスラエルの中心に位置しているような人々ではありませんでした。これを聞いたイスラエルの学者達は“ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう”というミカ書5章2節の預言の言葉をちゃんと知っていました。ヘロデという権力者にとって、この言葉は、権力の座が覆されることを意味していました。教会のカレンダーでは、1月6日を公現日（栄光祭）として、博士達に主が現れたことを記念しています。イエス様は、他国の人々に、そしてまたイスラエルの中でも羊飼いと、当時、決して身分の高くない人々の中で、その誕生が知らされました。地位の高いもの、力に頼り高ぶるものには歓迎されずに、この世の救い主として誕生されました。救いは現実のものとなったのです。世界の救いが、おぼろげな夢であったのが、歴史上の出来事として現実のものとなったのです。“彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた”という体験を大切にしたいと思います。聖書はこの後、大きな災いが、人の罪によって、ベツレヘムで荒れ狂ったことを記録していますが、このような全てのことを乗り越える永遠の真実を知って、恵みのうちを歩むものに変えられたいものです。

週報

2006年 12月 31日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸